

動物種	試験	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考
	2年間 慢性毒性 /発がん性 併合試験	雄：3.60 雌：13.2	雄：10.9 雌：49.1	雄：赤色眼脂、摂餌量増加等 雌：体重増加抑制、摂餌量増加、消瘦等
	2世代 繁殖試験	親動物 P雄：3.41 P雌：12.1 F ₁ 雄：— F ₁ 雌：13.8 児動物 F ₁ 雄：10.3 F ₁ 雌：12.1 F ₂ 雄：41.2 F ₂ 雌：46.9	親動物 P雄：10.3 P雌：41.8 F ₁ 雄：4.11 F ₁ 雌：46.9 児動物 F ₁ 雄：43.7 F ₁ 雌：41.8 F ₂ 雄：— F ₂ 雌：—	親動物：体重増加抑制 児動物：体重増加抑制 (繁殖能に対する影響は認められない)
	2世代 繁殖 試験・ 追加試験	親及び児動物 P雄：2.18 P雌：2.44 F ₁ 雄：2.52 F ₁ 雌：2.82	親及び児動物 P雄：— P雌：— F ₁ 雄：— F ₁ 雌：—	親動物：毒性所見なし 児動物：毒性所見なし (繁殖能に対する影響は認められない)
	発生毒性 試験①	母動物：3 胎児：150	母動物：30 胎児：—	母動物：体重増加抑制 児動物：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
	発生毒性 試験②	母動物：250 児動物：500	母動物：500 児動物：1,000	母動物：児の食殺、哺育率低下 児動物：体重の低値 (催奇形性は認められない)
マウス	90日間 亜急性 毒性試験	雄：34.7 雌：47.1	雄：145 雌：184	雌雄：体重増加抑制、摂餌量増加、食餌効率低下、消瘦/体型小型等
	18カ月間 発がん性 試験	雄：15.2 雌：5.33	雄：59.7 雌：15.7	雄：皮膚病変、死亡率増加、体重増加抑制等 雌：体重増加抑制、食餌効率低下 (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性 試験	母動物：2,000 胎児：2,000	母動物：— 胎児：—	母動物：毒性所見なし 胎児動物：毒性所見なし

動物種	試験	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	雄：8 雌：8	雄：40 雌：40	(催奇形性は認められない) 雄：体重増加抑制、Glob 減少 雌：体重増加抑制
	1年間 慢性毒性 試験	雄：8 雌：8	雄：40 雌：40	雄：角膜白色点 雌：角膜白色点、体重増加 抑制

－：無毒性量又は最小毒性量は設定できなかった。
備考：最小毒性量で認められた所見の概要を示す。

ラットを用いた 30 日間亜急性毒性試験における雌雄及び 6 ヶ月間亜急性毒性試験における雄で無毒性量が設定出来なかったが、より長期でかつより低用量の濃度を設定した毒性試験において無毒性量が得られていることから、ラットについての無毒性量は得られていると考えられた。

食品安全委員会農薬専門調査会及び動物用医薬品専門調査会は、各試験で得られた無毒性量の最小値がラットを用いた 2 世代繁殖試験の 2.18 mg/kg 体重/日であったので、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.021mg/kg 体重/日を毒性学的一日摂取許容量 (ADI) と設定した。

ADI	0.021 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	繁殖試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 世代
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.18 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

2. 微生物学的 ADI

微生物学的影響については、現時点で利用可能なものは、*in vitro* の MIC₅₀ のみであり、VICH ガイドラインに基づく新たに試算を行うに足る詳細な知見が、平成 18 年度食品安全確保総合調査 (動物用抗菌性物質の微生物学的影響調査) から得られており、この結果から国際的コンセンサスが得られている手法により微生物学的 ADI を算出することができる。国際的コンセンサスが得られている手法として、MICcalc に 0.005922 mg/mL、細菌が暴露される分画を 0.7、結腸内容物 220 g、ヒト体重 60kg を適用して、

$$\text{ADI (mg/kg 体重/日)} = \frac{0.005922 \text{ (mg/mL)} \times 220 \text{ (g)}}{0.7^* \times 60 \text{ (kg)}} = 0.03102 \text{ mg/kg 体重/日}$$

*：ヒトの代謝試験（1-（8））における尿及び糞便中への排泄率を適用

微生物学的 ADI については、EMEA においては 1998 年の評価において微生物学的 ADI は最も感受性の高かった *E.coli* の MIC₅₀ の 0.4µg/mL、結腸内容物 150mL、細菌が暴露される分画に糞中排泄率の 40%、ヒト体重に 60kg を適用する CVMP の算出式より、0.0025 mg/kg 体重/日と算出しているが、詳細なデータはなく、現時点において国際的コンセンサスが得られている VICH 算出式を採用するのが適切であると考えられる。

3. ADI の設定について

毒性学的データから導かれる ADI と微生物学的データから導かれる ADI を比較すると、毒性学的データから導かれた値がより小さくなることから、オキシソリニック酸の残留基準を設定するに際しての ADI としては 0.021mg/kg 体重/日と設定することが適当であると考えられる。

4. 食品健康影響評価

以上より、オキシソリニック酸の食品健康影響評価については、ADI として次の値を採用することが適当と考えられる。

オキシソリニック酸 0.021 mg/kg 体重/日

暴露量については、当評価結果を踏まえて、暫定基準値の見直しを行う際に再確認することとする。

<別紙 1 : 代謝物/分解物等略称>

代謝物/分解物

略称	化学名
B	1-ethyl-7-hydroxy-6-methoxy-4-oxo-1,4-dihydro-quinoline-3-carboxylic acid
C	1-ethyl-6-hydroxy-7-methoxy-4-oxo-1,4-dihydro-quinoline-3-carboxylic acid
D	Glucuronide of 1-ethyl-5,8-dihydro-8-oxo[1,3]dioxolo[4,5-g]quinoline-7-carboxylic acid
E	amino acid conjugate of 1-ethyl-7-hydroxy-6-methoxy-4-oxo-1,4-dihydro-quinoline-3-carboxylic acid
F	glucuronide of 1-ethyl-7-hydroxy-6-methoxy-4-oxo-1,4-dihydro-quinoline-3-carboxylic acid
G	conjugate of 1-ethyl-6,7-dihydroxy-4-oxo-1,4-dihydro-quinoline-3-carboxylic acid
H	glucuronide of 1-ethyl-6-hydroxy-7-methoxy-4-oxo-1,4-dihydro-quinoline-3-carboxylic acid
UA	(未同定代謝物)
UB	(未同定代謝物)
UC	(未同定代謝物)
U-1	(未同定分解物)
U-3	(未同定分解物)

原体混在物

略称	化学名
イソ体	(原体混在物)
N-メチル体	(原体混在物)
脱エチル体	(原体混在物)
アミド体	(原体混在物)
脱エチレン体	(原体混在物)

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ACh	アセチルコリン
A/G 比	アルブミン/グロブリン比
ai	有効成分量
Alb	アルブミン
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT))
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ (GOT))
BUN	血液尿素窒素
C _{max}	最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
Cre	クレアチニン
DHT	ジヒドロテストステロン
DOPAC	3,4-ジヒドロキシフェニル酢酸
Glu	グルコース (血糖)
Glob	グロブリン
hCG	ヒト絨毛性ゴナドトロピン
His	ヒスタミン
HVA	3-メトキシ-4-ヒドロキシフェニル酢酸
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
L-DOPA	L-ジヒドロキシフェニルアラニン
LH	黄体形成ホルモン
LHRH	黄体形成ホルモン放出ホルモン
MCH	平均赤血球血色素量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
NA	ノルアドレナリン
PHI	最終使用から収穫までの日数
RBC	赤血球数
Seg	分葉核好中球数
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Chol	総コレステロール
TG	トリグリセリド
T _{max}	最高濃度到達時間
TP	総蛋白質
TRR	総残留放射能
WBC	白血球数

<別紙3：作物残留試験成績>

作物名(分析部位) 実施年	試験 圃場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
					オキシリニック酸	
					最高値	平均値
水稲(玄米) 1988年度	2	300 ^{WP} ~400 ^D	3	45	<0.01	<0.01
水稲(稲わら) 1988年度	2	300 ^{WP} ~400 ^D	3	45	3.47	1.72
水稲(玄米) 1990年度	2	300 ^{WP} ~400 ^D	3 3	21 30	0.07 0.08	0.035 0.03*
水稲(稲わら) 1990年度	2	300 ^{WP} ~400 ^D	3 3	21 30	5.36 3.69	2.76 1.76
ばれいしょ(塊茎) 1988年度	2	400 WP	4 4	7 14	0.03 0.02	0.025 0.018*
こんにゃく(球茎) 1989年度	2	400 WP	5 5	15-17 29-31	0.08 0.05	0.035* 0.022*
こんにゃく(球茎) 1991年度	2	200~400 WP	6 6	14 21	0.17 0.17	0.09 0.07
だいこん(根部) 1988年度	2	150~300 WP	3	21	0.02	0.01*
だいこん(葉部) 1988年度	2	150~300 WP	3	21	0.99	0.641
はくさい(茎葉) 1989年度	2	400 WP	3 3 3	7 14 21	0.61 0.46 0.26	0.48 0.238 0.15
はくさい(茎葉) 1991年度	2 3 3	150~300 WP	2 2 2	7 14 21	0.54 0.38 0.12	0.382 0.154 0.05*
キャベツ(葉球) 1990年度	2	400 WP	3 3 3	7 14 21	0.73 0.21 0.04	0.292 0.072 0.018*
キャベツ(葉球) 1991年度	2	240~300 ^{WP}	3 3	7 14	0.25 0.20	0.17 0.13
チンゲンサイ(茎葉) 1995年度	2	400~666 WP	2 2 2	7 14 21	0.98 0.209 0.103	0.672 0.174 0.054*
ブロッコリー(花蕾) 1992年度	2	200~400 WP	2 2	14 21	0.07 0.01	0.031 0.01*
はなっこりー(花蕾部) 2003年度	2	200 WP	2 2 2 2	1 3 7 14	0.73 0.28 0.08 <0.02	0.525 0.235 0.06 <0.02
レタス(茎葉) 1991年	2	150 WP	2 2	14 21	0.28 0.19	0.13* 0.095
レタス(茎葉) 1993年度	2	134~400 WP	2 2	14 21	0.15 0.07	0.065 0.035*
たまねぎ(鱗茎) 1988年度	2	300 WP	5 5	7 14-17	0.02 0.01	0.012* 0.01*
根深ねぎ(茎葉) 1995年度	2	150~200 WP	4	21	0.89	0.28
葉ねぎ(茎葉) 1995年度	2	200 WP	4	21	0.29	0.145

ニンニク(鱗茎) 2001年度	2	500 WP	2 2 2	7 14 21	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01
にんじん(根部) 1994年度	2	200~400 WP	3 3 3	7 14 21	0.05 0.02 0.01	0.027 0.018* 0.01*
セロリ(茎葉) 1993・1994年度	2	150~250 WP	3 3 3	14 21 30	0.44 0.20 0.11	0.185 0.092 0.04*
なし(果実) 1999年度	2	600 WP	3 3 3	45・48 60・63 75・78	0.07 0.04 0.02	0.06 0.032 0.015*
もも(果肉) 2006年度	2	700~800 WP	3 3 3	7 14 30	0.03 0.09 0.08	0.06 0.05 0.07*
もも(果皮) 2006年度	2	700~800 WP	3 3 3	7 14 30	11.0 4.67 4.79	8.20 4.04 3.51
うめ(果実) 2003・2006年度	1 3 1 2	390~800 WP	3 3 3 3	7 14 21 30	9.87 10.7 1.71 4.95	9.04 3.91 1.49 2.36

D：粉剤、WP：水和剤

- ・全データが定量限界未満の平均値を算出する場合は定量限界値を平均し、<を付した。
- ・複数の試験機関で、定量限界が異なる場合の最高値は、大きい値を示した（例えばA機関で0.006検出され、B機関で<0.008の場合、<0.008とした）。
- ・一部に定量限界未満（例えば<0.01）を含むデータの平均値は定量限界値（例えば0.01）を検出したものとして計算し、*を付した。

<別紙4：推定摂取量>

作物名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：53.3kg)		小児(1~6歳) (体重：15.8kg)		妊婦 (体重：55.6kg)		高齢者(65歳以上) (体重：54.2kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (µg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (µg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (µg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (µg/人/日)
米	0.035	185.1	6.48	97.7	3.42	139.7	4.89	188.8	6.61
ばれいしょ	0.025	36.6	0.92	21.3	0.53	39.8	1.00	27	0.68
こんにゃく	0.09	12.9	1.16	5.7	0.51	11	0.99	13.4	1.21
だいこん(根)	0.01	45	0.45	18.7	0.19	28.8	0.29	58.5	0.59
だいこん(葉)	0.641	2.2	1.41	0.5	0.32	0.9	0.58	3.4	2.18
はくさい	0.48	29.4	14.11	10.3	4.94	21.9	10.51	31.7	15.22
キャベツ	0.292	22.8	6.66	9.8	2.86	22.9	6.69	19.9	5.81
チンゲンサイ	0.672	1.4	0.94	0.3	0.20	1	0.67	1.9	1.28
はなやさい (ブロッコリー)	0.031	4.5	0.14	2.8	0.09	4.7	0.15	4.1	0.13
その他のアブラナ科野菜	0.525	2.1	1.10	0.3	0.16	0.2	0.11	3.1	1.63
レタス	0.13	6.1	0.79	2.5	0.33	6.4	0.83	4.2	0.55
たまねぎ	0.012	30.3	0.36	18.5	0.22	33.1	0.40	22.6	0.27
ねぎ	0.28	11.3	3.16	4.5	1.26	8.2	2.30	13.5	3.78
ニンニク	0.01	0.3	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00	0.3	0.00
にんじん	0.027	24.6	0.66	16.3	0.44	25.1	0.68	22.3	0.60
セロリ	0.185	0.4	0.07	0.1	0.02	0.3	0.06	0.4	0.07
日本なし	0.06	5.1	0.31	4.4	0.26	5.3	0.32	5.1	0.31
もも	8.20	0.5	4.1	0.7	5.74	4.0	32.8	0.1	0.82
うめ	9.04	1.1	9.94	0.3	2.71	1.4	12.6	1.6	14.5
合計			52.8		24.2		75.9		56.2

注) ・残留値は、申請されている使用時期・回数のうち最大の残留を示す各試験区の平均残留値を用いた(参照 別紙3)。

- ・ff：平成10年~12年の国民栄養調査(参照 65~67)の結果に基づく農産物摂取量(g/人/日)。
- ・摂取量：残留値及び農産物摂取量から求めたオキシリニック酸の推定摂取量(µg/人/日)。
- ・その他のアブラナ科野菜の残留値は、はなっこりの値を用いた。

<別紙 5：動物用医薬品の用法・用量>

医薬品	使用対象動物	用法及び用量	使用禁止期間
オキシリン酸を有効成分とする飼料添加剤(懸濁水性剤を除く。)	牛(生後50日を超えるものを除く。)	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと殺する前5日間
	豚	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと殺する前5日間
	鶏(産卵鶏を除く。)	飼料1t当たり500g以下の量を混じて経口投与すること。	食用に供するためにと殺する前5日間
	すずき目魚類	1日量として体重1kg当たり30mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと水揚げする前16日間
	にしん目魚類(海水中で養殖されているもの)	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと水揚げする前21日間
	にしん目魚類(淡水中で養殖されているもの。ただし、あゆを除く。)	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと水揚げする前21日間
	うなぎ目魚類(うなぎにあつては、食用に供するためにと水揚げする前25日間は飼育水の交換率が1日平均50%以上の条件におかれるもの)	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと水揚げする前25日間
	こい目魚類	1日量として体重1kg当たり10mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと水揚げする前28日間

医薬品	使用対象動物	用法及び用量	使用禁止期間
オキシリン酸を有効成分とする飼料添加剤(懸濁水性剤を除く。)	あゆ	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するために水揚げする前14日間
	くるまえばい	1日量として体重1kg当たり50mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するために水揚げする前30日間
オキシリン酸を有効成分とする飼料添加剤(懸濁水性剤)	すずき目魚類	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を飼料に混じて経口投与すること。	食用に供するために水揚げする前16日間
オキシリン酸を有効成分とする飲水添加剤	鶏(産卵鶏を除く。)	1日量として体重1kg当たり10mg以下の量を飲水に混じて経口投与すること。	食用に供するためにと殺する前5日間
オキシリン酸を有効成分とする強制経口投与剤	豚(生後1月を超えるものを除く。)	1日量として体重1kg当たり20mg以下の量を強制的に経口投与すること。	食用に供するためにと殺する前5日間
オキシリン酸を有効成分とする薬浴剤	うなぎ	水1t当たり5g以下の量を溶かして薬浴すること。	食用に供するために水揚げする前25日間
	あゆ	水1t当たり10g以下の量を溶かして薬浴すること。	食用に供するために水揚げする前14日間

<参照>

- 1 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生労働省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 17 年 11 月 29 日付、平成 17 年厚生労働省告示第 499 号）
- 2 農薬抄録オキシリニック酸：日本農薬株式会社、2005 年、未公表
- 3 オキシリニック酸の吸収、分布および排泄：田辺製薬㈱、1973 年、未公表
- 4 オキシリニック酸連続投与時の血中濃度と臓器内分布：田辺製薬㈱、1973 年、未公表
- 5 オキシリニック酸のラットにおける代謝試験（Ⅰ）：1 回投与試験：第一化学薬品株式会社、1990 年、未公表
- 6 オキシリニック酸のラットにおける代謝試験（Ⅱ）：連続投与試験：第一化学薬品株式会社、1990 年、未公表
- 7 オキシリニック酸の代謝：田辺製薬㈱、1974 年、未公表
- 8 オキシリニック酸の水稻における代謝：住友化学工業株式会社、1989 年、未公表
- 9 種子処理したオキシリニック酸の水稻における移行性：住友化学工業株式会社、1988 年、未公表
- 10 オキシリニック酸の白菜における代謝：住友化学工業株式会社、1989 年、未公表
- 11 オキシリニック酸の土壌からダイコンへの吸収移行：第一化学薬品株式会社、1988 年、未公表
- 12 オキシリニック酸の水田土壌における代謝：住友化学工業株式会社、1989 年、未公表
- 13 オキシリニック酸の畑地土壌における代謝：住友化学工業株式会社、1989 年、未公表
- 14 オキシリニック酸の土壌表面における光分解：住友化学工業株式会社、1988 年、未公表
- 15 オキシリニック酸の土壌からの溶脱性：住友化学工業株式会社、1988 年、未公表
- 16 オキシリニック酸の土壌における吸着と脱着：住友化学工業株式会社、1988 年、未公表
- 17 オキシリニック酸土壌吸着係数試験報告書：化学分析コンサルタント、1993 年、未公表
- 18 オキシリニック酸の土壌懸濁培養液中における代謝：住友化学工業株式会社、1989 年、未公表
- 19 オキシリニック酸の加水分解及び水中における光分解：住友化学工業株式会社、1989 年、未公表
- 20 オキシリニック酸の水中光分解運命試験（GLP 対応）：PTRL-West, Inc. (米)、2004 年、未公表
- 21 土壌残留試験結果：住友化学工業株式会社、1987、1988 年、未公表

- 22 作物残留試験結果：住友化学工業株式会社、1988～2003年、未公表
- 23 後作物残留試験結果：住友化学工業株式会社、1989、1990年、未公表
- 24 乳汁試験結果：財団法人畜産生物科学安全研究所、1988年、未公表
- 25 オキシリニック酸原体の生体の機能に及ぼす影響に関する試験（GLP 対応）：
（財）残留農薬研究所、1988年、未公表
- 26 オキシリニック酸原体のラットにおける急性経口毒性試験（試験 1）（GLP 対
応）：住友化学工業株式会社、1987年、未公表
- 27 オキシリニック酸原体のラットにおける急性経口毒性試験（試験 2）（GLP 対
応）：住友化学工業株式会社、1987年、未公表
- 28 オキシリニック酸原体のマウスにおける急性経口毒性試験（GLP 対応）：住友化
学工業株式会社、1987年、未公表
- 29 オキシリニック酸原体のラットにおける急性経皮毒性試験（GLP 対応）：住友
化学工業株式会社、1987年、未公表
- 30 オキシリニック酸原体のラットにおける急性吸入毒性試験（GLP 対応）：（財）
残留農薬研究所、1987年、未公表
- 31 Yanada T., Nakamura J., Okuno Y., Hsokawa S., Matsuo M., Yamada H.,
Ohta M. A possible mechanism for the increase in serum luteinizing
hormone levels in male rats by oxolinic acid. *Toxicol. Appl. Pharmacol.*
(1995) 134(1):35-42.
- 32 Garcia de Mateos-Verchere J., Vaugeois JM., Naudin B., Costentin J.
Behavioural and neurochemical evidence that the antimicrobial agent
oxolinic acid is a dopamine putake inhibitor. *Eur. Neuropsychopharmacol.*
(1988) 8(4):255-259.
- 33 Thiebot MH., Kloczko J., Chermat R., Simon P., Soubrie P. Oxolinic acid
and diazepam: their reciprocal antagonism in rodents.
Psychopharmacology (1980) 67(1):91-95.
- 34 オキシリニック酸原体中の混在物イソ体のマウスにおける急性経口毒性試験
（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1987年、未公表
- 35 オキシリニック酸原体中の混在物 N-メチル体のマウスにおける急性経口毒性
試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1988年、未公表
- 36 オキシリニック酸原体中の混在物脱エチル体のマウスにおける急性経口毒性試
験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1988年、未公表
- 37 オキシリニック酸原体中の混在物アミド体のマウスにおける急性経口毒性試験
（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1988年、未公表
- 38 オキシリニック酸原体中の混在物脱メチレン体のマウスにおける急性経口毒性
試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1989年、未公表
- 39 オキシリニック酸原体のウサギの眼及び皮膚に対する刺激性試験（GLP 対
応）：住友化学工業株式会社、1987年、未公表
- 40 オキシリニック酸原体のモルモットにおける皮膚感作性試験（GLP 対応）：

- 住友化学工業株式会社、1987年、未公表
- 41 オキシリニック酸原体のラットにおける13週間亜急性毒性試験 (GLP 対応) :
(財) 残留農薬研究所、1988年、未公表
 - 42 オキシリニック酸原体のマウスにおける13週間亜急性毒性試験 (GLP 対応) :
(財) 残留農薬研究所、1988年、未公表
 - 43 オキシリニック酸原体のイヌにおける3カ月間亜急性経口毒性試験 (GLP 対応) :
(財) 残留農薬研究所、1989年、未公表
 - 44 オキシリニック酸原体のイヌにおける1年間慢性経口毒性試験 (GLP 対応) : (財)
残留農薬研究所、1989年、未公表
 - 45 オキシリニック酸原体のラットにおける24カ月間慢性毒性・発がん性試験 (GLP
対応) : (財) 残留農薬研究所、1990年、未公表
 - 46 オキシリニック酸原体のマウスにおける18カ月間経口発がん性試験 (GLP 対
応) : (財) 残留農薬研究所、1990年、未公表
 - 47 オキシリニック酸原体のラットにおける2世代繁殖性試験 (GLP 対応) : (財)
残留農薬研究所、1990年、未公表
 - 48 オキシリニック酸原体のラットにおける2世代繁殖性試験 : 追加試験 (GLP 対
応) : (財) 残留農薬研究所、1990年、未公表
 - 49 オキシリニック酸原体のラットにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : (財) 残
留農薬研究所、1989年、未公表
 - 50 オキシリニック酸原体のウサギにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : 信州動物
実験センター、1988年、未公表
 - 51 オキシリニック酸原体の細菌を用いたDNA修復試験 (GLP 対応) : 住友化学工
業株式会社、1988年、未公表
 - 52 オキシリニック酸原体の細菌を用いた復帰変異性試験 : 住友化学工業株式会社、
1988年、未公表
 - 53 オキシリニック酸原体のチャイニーズハムスター肺由来の培養細胞 (V79) を用
いた遺伝子突然変異試験 (GLP 対応) : 住友化学工業株式会社、1986年、未公
表
 - 54 オキシリニック酸原体のチャイニーズハムスター肺由来の培養細胞を用いた *in
vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応) : 野村生物科学研究所、1988年、未公表
 - 55 オキシリニック酸原体のラット肝細胞を用いた *in vitro* 不定期 DNA 合成試験
(GLP 対応) : 住友化学工業株式会社、1990年、未公表
 - 56 オキシリニック酸原体の核分離法を用いた *in vitro* 不定期 DNA 合成試験 (GLP
対応) : 住友化学工業株式会社、1990年、未公表
 - 57 オキシリニック酸原体のマウス骨髄細胞を用いた小核試験 (GLP 対応) : 野村生
物科学研究所、1987年、未公表
 - 58 オキシリニック酸原体のマウス骨髄細胞を用いた *in vivo* 姉妹染色体交換試験
(GLP 対応) : Hazleton Washington, Inc., 1991年、未公表
 - 59 オキシリニック酸原体中の混在物イソ体の細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対

- 応) : 住友化学工業株式会社、1988年、未公表
- 60 オキシリニック酸原体中の混在物 N-メチル体の細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対応) : 住友化学工業株式会社、1988年、未公表
- 61 オキシリニック酸原体中の混在物脱エチル体の細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対応) : 住友化学工業株式会社、1988年、未公表
- 62 オキシリニック酸原体中の混在物アミド体の細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対応) : 住友化学工業株式会社、1988年、未公表
- 63 オキシリニック酸原体中の混在物脱メチレン体の細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対応) : 住友化学工業株式会社、1990年、未公表
- 64 オキシリニック酸原体のラット精巣腫瘍の発現機作検討試験 : 住友化学工業株式会社、1994、1995年、未公表
- 65 国民栄養の現状－平成 10 年国民栄養調査結果－ : 健康・栄養情報研究会編、2000年
- 66 国民栄養の現状－平成 11 年国民栄養調査結果－ : 健康・栄養情報研究会編、2001年
- 67 国民栄養の現状－平成 12 年国民栄養調査結果－ : 健康・栄養情報研究会編、2002年
- 68 食品健康影響評価について (URL : http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-uke-oxolinic_acid-180904.pdf)
- 69 第 158 回食品安全委員会 (URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai158/index.html>)
- 70 第 6 回食品安全委員会農薬専門調査会総合評価第二部会 (URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/sougou2_dai6/index.html)
- 71 オキシリニック酸の食品健康影響評価資料の追加提出について : 住友化学株式会社、2007年、未公表
- 72 第 15 回食品安全委員会農薬専門調査会総合評価第二部会 (URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/sougou2_dai15/index.html)
- 73 第 31 回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会 (URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kannjikai_dai31/index.html)
- 74 オキシリン酸 食品健康影響評価に関する資料概要 : 大日本住友製薬株式会社、未公表
- 75 COMMITTEE FOR VETERINARY MEDICINAL PRODUCTS OXOLINIC ACID SUMMARY REPORT (1),(2),(4),(5)、EMEA
- 76 動物用医薬品等データベース (URL : http://www.nval.go.jp/asp/asp_dbDR_idx.asp)
- 77 人によるオキシリン酸の代謝 : Warner-Lambert Reseach Institute, F.J.Dicarlo et al.、未公表
- 78 子牛におけるオキシリン酸経口投与の安全性と体内残留試験成績 : 田辺製薬株式会社、未公表

- 79 豚におけるオキシリン酸経口投与の安全性と体内残留試験成績、田辺製薬株式会社、未公表
- 80 鶏雛におけるオキシリン酸飼料中添加投与の安全性と体内残留試験成績、田辺製薬株式会社、未公表
- 81 微細化オキシリン酸の鶏大腸菌症に対する効果ならびに鶏における吸収性および残留性、田辺製薬株式会社、未公表
- 82 TO-77S を投与した鶏におけるオキシリン酸の残留、有限会社京都動物検疫センター、未公表
- 83 TO-77S 経口投与によるオキシリン酸の子豚への残留試験、財団法人畜産生物科学安全研究所、1989年、未公表
- 84 TO-77S 経口投与によるオキシリン酸の子豚への残留試験、財団法人畜産生物科学安全研究所、1990年、未公表
- 85 オキシリン酸のハマチ体内残留試験、和歌山県水産増殖試験場、未公表
- 86 経口投与によるオキシリン酸のハマチ組織内濃度試験、兵庫県水産試験場、未公表
- 87 オキシリン酸に関する各種試験成績、岐阜県水産試験場、1972年、未公表
- 88 オキシリン酸の魚類抗菌剤としての適正試験報告(1)・(2)、長野県水産指導所、1972年、未公表
- 89 オキシリン酸を鮎に経口投薬した時の組織内濃度、神奈川県淡水魚増殖試験場、未公表
- 90 Oxolinic Acid の魚類感染症治療剤としての応用に関する研究-I. 抗菌活性, 治療効果, ならびに魚体内消長、遠藤俊夫、萩島健次、早坂治男、金子修司、大島慧、Bulletin of Japanese Society of Scientific Fisheries. (1973) 39(2):165-171
- 91 オキシリン酸の経口投薬による鯉組織内濃度、神奈川県淡水魚増殖試験場、未公表
- 92 オキシリン酸のウナギ投与時における体内残留濃度、千葉県内湾水産試験場内水面分場、未公表
- 93 TO-77 薬浴剤のアユにおける基礎試験、和歌山県内水面漁業センター、未公表
- 94 オキシリン酸の薬浴によるウナギ残留性試験、田辺製薬株式会社、未公表
- 95 オキシリン酸の経口投与によるニジマス・アユの残留性試験、岐阜県衛生研究所、未公表
- 96 高速液体クロマトグラフィによるブリ組織中のオキシリン酸の定量ならびに微細化によるオキシリン酸のバイオアベイラビリティの向上、田辺製薬株式会社、未公表
- 97 TO-77S のブリ体内残留性試験、香川県水産試験場、1986年、未公表
- 98 新抗菌剤オキシリン酸の飼料中への添加が産卵に及ぼす影響ならびに鶏卵中の残留、京都府立大学、1972年、未公表
- 99 オキシリン酸の急性毒性、田辺製薬株式会社、未公表

- 100 オキシリン酸の亜急性毒性試験、田辺製薬株式会社、未公表
- 101 オキシリン酸の慢性毒性試験、田辺製薬株式会社、未公表
- 102 新抗菌剤オキシリン酸の寄生学的安全性の検討、岐阜大学、未公表
- 103 平成 18 年度食品安全確保総合調査：動物用抗菌性物質の微生物学的影響についての調査、食品安全委員会
- 104 食品健康影響評価について（URL：http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-uke-oxolinicacid_191226.pdf）
- 105 作物残留試験結果：住友化学工業株式会社、2003~2006 年、未公表
- 106 第 221 回食品安全委員会（URL：<http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai221/index.html>）
- 107 第 34 回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会（URL：http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kanjikai_dai34kai/index.html）